

# 蒲郡市の人口動態報告（令和4年4月）

蒲郡市企画部企画政策課  
TEL:0533-66-1162

## 1 人口と世帯の概況

### (1) 人口と世帯数

○令和4年4月1日現在の人口は79,085人（前年比-473）で前年に引き続き減少した。

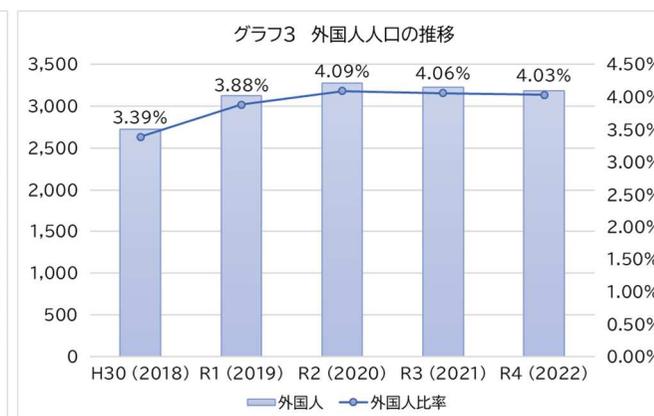
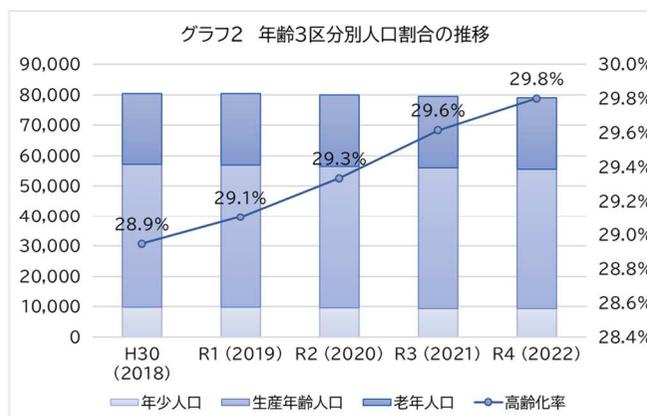
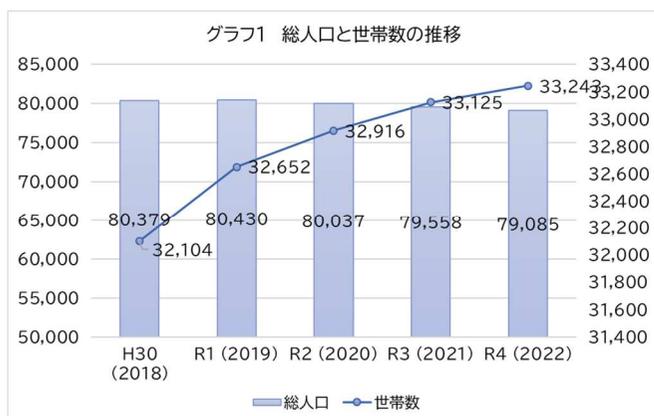
○世帯数は33,243世帯（前年比118）で前年に引き続き増加した。

○年少人口は9,327人（前年比-105）、生産年齢人口は46,190人（前年比-374）で前年に引き続き減少した。老年人口は23,568人（前年比+6）で前年に引き続き増加した。

○外国人の人口は3,189人（前年比-40）で前年に引き続き減少した。

表1 人口と世帯数の推移

年次	4月1日現在			世帯数	人数/ 世帯	年少人口		生産年齢人口		老年人口		外国人	
	総人口	男性	女性			総数	比率	総数	比率	総数	比率	総数	比率
H30 (2018)	80,379	39,686	40,693	32,104	2.50	9,828	12.2%	47,283	58.8%	23,268	28.9%	2,725	3.4%
R1 (2019)	80,430	39,766	40,664	32,652	2.46	9,755	12.1%	47,264	58.8%	23,411	29.1%	3,123	3.9%
R2 (2020)	80,037	39,505	40,532	32,916	2.43	9,612	12.0%	46,946	58.7%	23,479	29.3%	3,277	4.1%
R3 (2021)	79,558	39,292	40,266	33,125	2.40	9,432	11.9%	46,564	58.5%	23,562	29.6%	3,229	4.1%
<b>R4 (2022)</b>	<b>79,085</b>	<b>39,057</b>	<b>40,028</b>	<b>33,243</b>	<b>2.38</b>	<b>9,327</b>	<b>11.8%</b>	<b>46,190</b>	<b>58.4%</b>	<b>23,568</b>	<b>29.8%</b>	<b>3,189</b>	<b>4.0%</b>



## (2) 総代7地区別人口

○対総人口に対する比率は町部、形原、三谷、東西北部の順に多い。

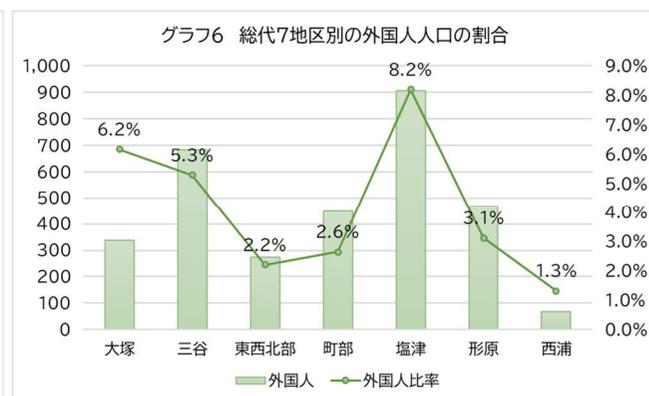
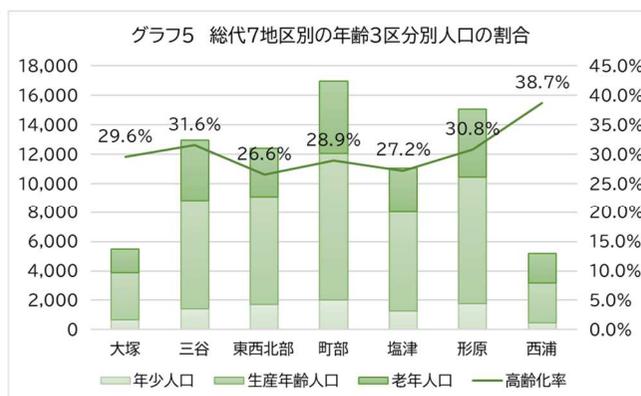
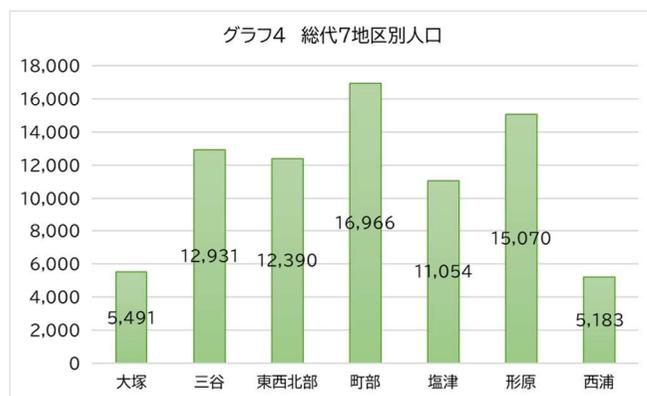
○1世帯あたり人数は東西北部・形原・西浦では約2.5人となっているのに対し三谷・塩津では2.2人台で地域間に差がある。

○年少人口比率は東西北部、町部、大塚の順に高く、西浦が最も低い。生産年齢人口比率は塩津、東西北部、町部の順に高く、西浦が最も低い。老年人口比率は西浦、三谷、形原の順に高く、東西北部が最も低い。

○外国人比率は塩津、大塚、三谷の順に高く、西浦が最も低い。地域間で大きな差がある。(最大6.9ポイント)

表2 総代7地区別の人口の概況

地区	4月1日現在		世帯数	人数/世帯 (人)	年少人口		生産年齢人口		老年人口		外国人	
	総人口(人)	対総人口比率			総数(人)	比率	総数(人)	比率	総数(人)	比率	総数(人)	比率
大塚	5,491	6.9%	2,322	2.36	648	11.8%	3,219	58.6%	1,624	29.6%	339	6.2%
三谷	12,931	16.4%	5,689	2.27	1,401	10.8%	7,446	57.6%	4,084	31.6%	684	5.3%
東西北部	12,390	15.7%	4,733	2.62	1,717	13.9%	7,381	59.6%	3,292	26.6%	273	2.2%
町部	16,966	21.5%	7,363	2.30	2,041	12.0%	10,018	59.0%	4,907	28.9%	449	2.6%
塩津	11,054	14.0%	5,010	2.21	1,268	11.5%	6,775	61.3%	3,011	27.2%	906	8.2%
形原	15,070	19.1%	6,012	2.51	1,768	11.7%	8,659	57.5%	4,643	30.8%	470	3.1%
西浦	5,183	6.6%	2,114	2.45	484	9.3%	2,692	51.9%	2,007	38.7%	68	1.3%



## 2 人口動態の概況

(1) 人口動態の概況（※全体の数値は、住民基本台帳の人口動向資料と数件の誤差があります。）

### ア 過去5年間の推移

○出生数は509人（前年比+36）で3年ぶりに増加し、死亡数は964人（前年比+8）で昨年に引き続き増加した。

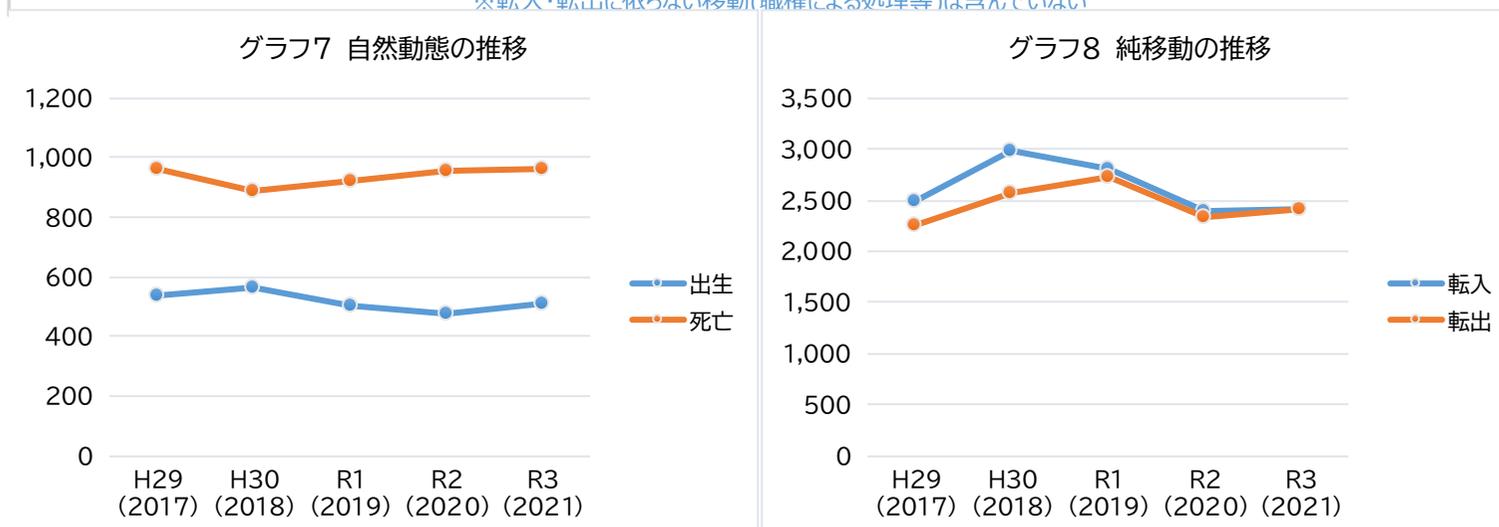
○転入数は2,407人（前年比+13）、転出数は2,404人（前年比+78）だった。

○自然増減は-455人、純移動は+3人で、全体の人口動態は減少した。

表3 人口動態の推移

年度	出生	死亡	自然増減	転入	転出	純移動
H29 (2017)	538	963	-425	2,497	2,263	234
H30 (2018)	566	889	-323	2,990	2,573	417
R1 (2019)	505	921	-416	2,812	2,724	88
R2 (2020)	473	956	-483	2,394	2,326	68
R3 (2021)	509	964	-455	2,407	2,404	3

※転入・転出に依らない移動(職権による処理等)は含んでいない



### イ 総代7地区別の人口動態

○出生数は町部、東西北部、塩津の順に多く、西浦が最も低い。死亡数は町部、形原、三谷の順に多く、大塚が最も低い。

○全地区で自然減となり、形原、三谷町部、東西北部の順に多く、大塚が最も低い。

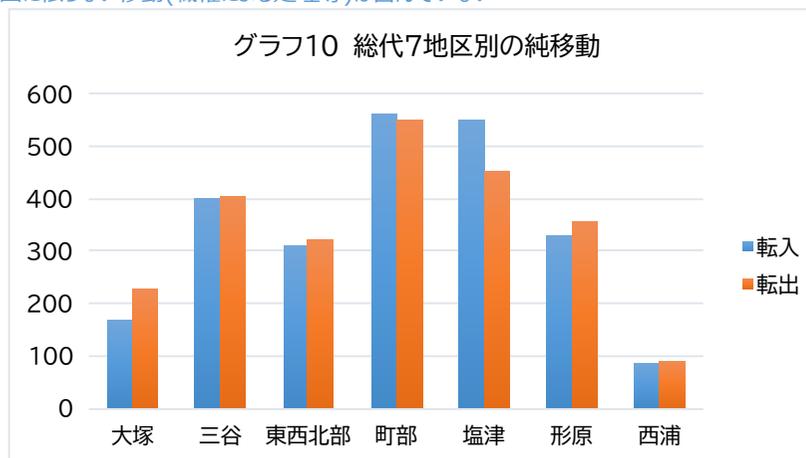
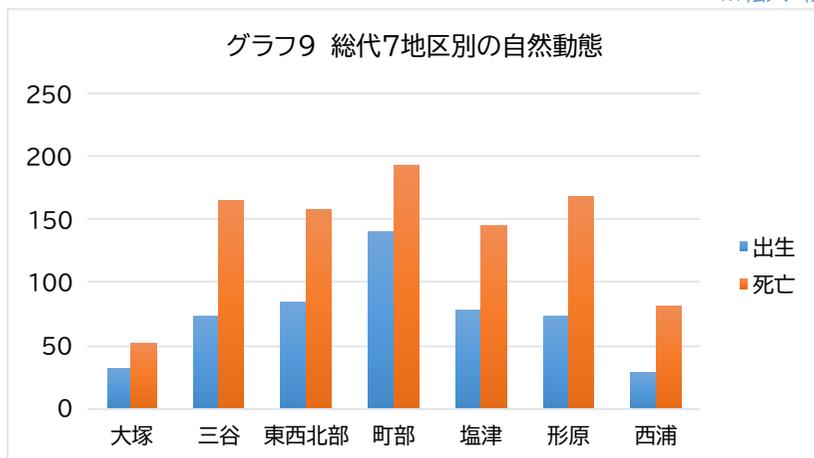
○純移動がプラスとなったのは塩津、町部のみであり、他の三谷、西浦、東西北部、形原、大塚でマイナスとなった。

○人口動態が大きいのは形原、三谷、大塚、東西北部、西浦であり、－50人を超えた。塩津はプラスに転じた。

表4 総代7地区別の人口動態 (2021年度)

総代7地区	出生	死亡	自然増減	転入	転出	純移動	増減数
大塚	31	52	-21	168	229	-61	-82
三谷	74	165	-91	401	404	-3	-94
東西北部	85	158	-73	312	321	-9	-82
町部	140	193	-53	561	550	11	-42
塩津	78	145	-67	549	453	96	29
形原	73	169	-96	331	357	-26	-122
西浦	28	82	-54	85	90	-5	-59

※転入・転出に依らない移動(職権による処理等)は含んでいない



## (2) 転入・転出の概況

### ア 年代別の転入・転出（男女別）

○男性・女性いずれも0-4歳・20-24歳・25-29歳・30-34歳・35-39歳で転入・転出が多い。

○転入では、0-4歳・5-9歳及び40-44歳が男女ともに大きく転出を上回り、純移動がプラスである。

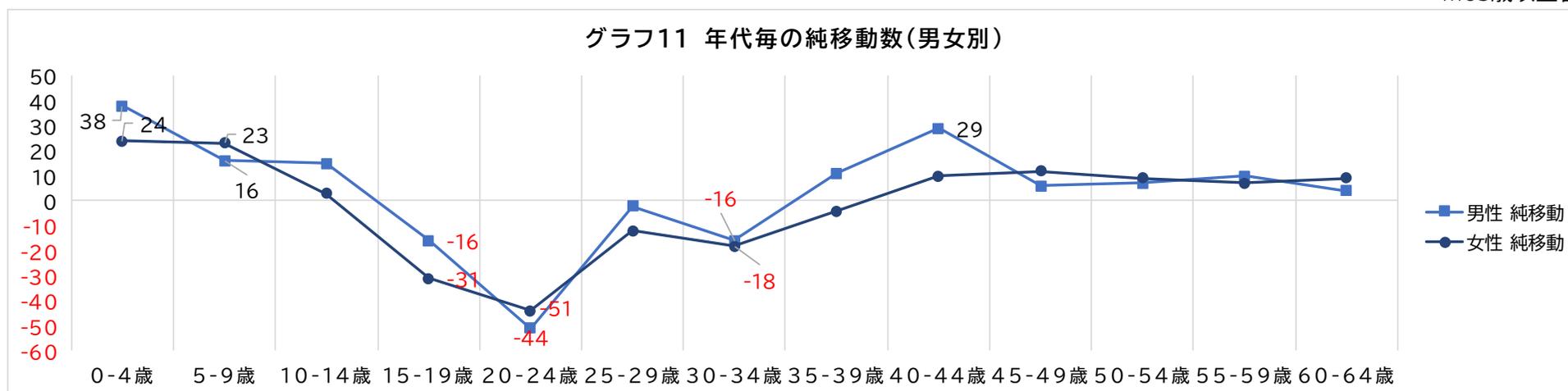
○転出では、15-19歳・20-24歳・25-29歳・30-34歳の若年層が男女ともに多く、純移動はマイナスである。

○35-39歳・40-44歳では、男性と女性の転入数が約50の差がある。

表5 年代毎の転入・転出（男女別）

		総数	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳
男性	転入	1,314	98	38	27	54	228	250	165	123	106	69	48	41	23
	転出	1,266	60	22	12	70	279	252	181	112	77	63	41	31	19
	純移動	48	38	16	15	-16	-51	-2	-16	11	29	6	7	10	4
女性	転入	1,093	85	36	24	45	222	220	139	78	55	52	40	28	18
	転出	1,138	61	13	21	76	266	232	157	82	45	40	31	21	9
	純移動	-45	24	23	3	-31	-44	-12	-18	-4	10	12	9	7	9

※65歳以上省略



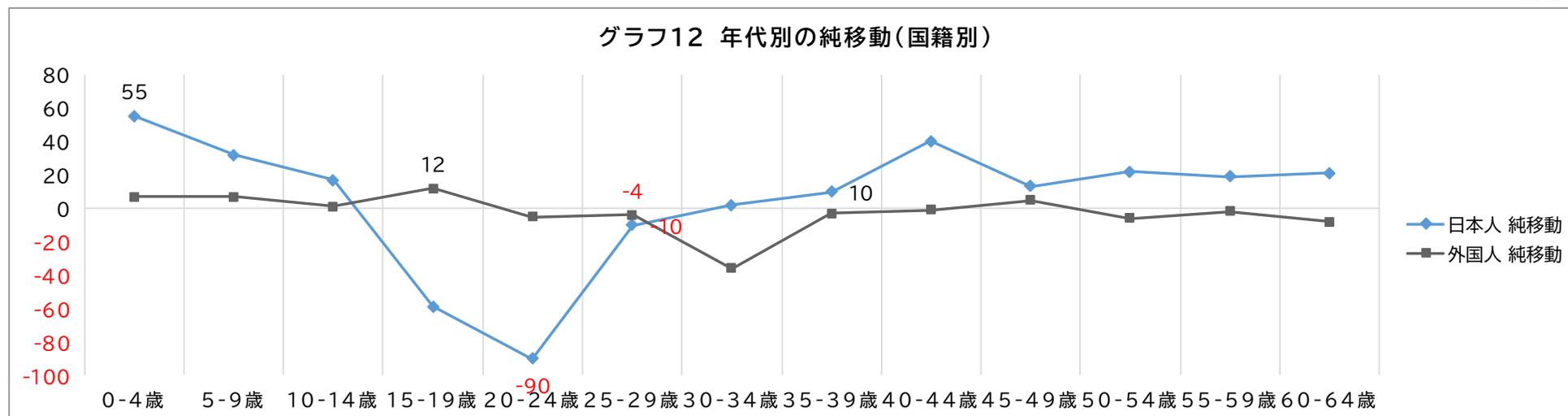
### イ 年代別の転入・転出（国籍別）

- 日本人・外国人いずれも20-24歳・25-29歳・30-34歳で転入・転出が多い。
- 日本人・外国人いずれも0-4歳・5-9歳・10-14歳では、純移動がプラスである。
- 15-19歳では日本人が純移動-59なのに対し外国人は+12であり、大きな差がある。
- 20-24歳・25-29歳では、日本人・外国人ともに純移動はマイナスである。
- 30-34歳以上では、45-49歳を除き、日本人が純移動はプラスなのに対し外国人はマイナスであり、大きな差がある。

表6 年代別の転入・転出（国籍別）

		総数	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳
日本人	転入	2,018	161	61	38	71	362	377	257	179	138	108	75	62	39
	転出	1,981	106	29	21	130	452	387	255	169	98	95	53	43	18
	純移動	37	55	32	17	-59	-90	-10	2	10	40	13	22	19	21
外国人	転入	389	22	13	13	28	88	93	47	22	23	13	13	7	2
	転出	423	15	6	12	16	93	97	83	25	24	8	19	9	10
	純移動	-34	7	7	1	12	-5	-4	-36	-3	-1	5	-6	-2	-8

※65歳以上省略



ウ 主な転入元と転出先

① 愛知県内

○転入元は岡崎市、豊橋市、幸田町、名古屋市、豊川市の順に多く、愛知県内からの転入の64.9%を占めている。

○転出先は名古屋市、豊橋市、豊川市、岡崎市、西尾市の順に多く、愛知県内への転出の67.8%を占めている。

表7 愛知県内で転入者・転出者が多い市町村

県内市町村	転入				転出			
	総数	割合	男性	女性	総数	割合	男性	女性
愛知県	1,525	100.0%	811	714	1,467	100.0%	743	724
岡崎市	288	18.9%	150	138	188	12.8%	87	101
豊橋市	191	12.5%	98	93	222	15.1%	113	109
幸田町	189	12.4%	93	96	102	7.0%	50	52
名古屋市	165	10.8%	90	75	250	17.0%	117	133
豊川市	157	10.3%	78	79	198	13.5%	105	93
西尾市	147	9.6%	80	67	136	9.3%	65	71
安城市	75	4.9%	46	29	37	2.5%	20	17
刈谷市	43	2.8%	22	21	39	2.7%	22	17

※転入者数の多い市町村から順に掲載

② 愛知県外

○転入元・転出先ともに愛知県内が60%超、海外が6%超となっている。

○愛知県を除く転入元は静岡県、岐阜県、東京都、神奈川県、三重県の順に多い。

○愛知県を除く転出先は東京都、静岡県、神奈川県、三重県、大阪府、岐阜県の順となっている。

表8 転入者・転出者が多い都道府県

都道府県	転入				転出			
	総数	割合	男性	女性	総数	割合	男性	女性
全国	2,407	100.0%	1,314	1,093	2,404	100.0%	1,266	1,138
愛知県	1,525	63.4%	811	714	1,467	61.0%	743	724
静岡県	86	3.6%	58	28	106	4.4%	54	52
岐阜県	81	3.4%	35	46	37	1.5%	14	23
東京都	75	3.1%	38	37	136	5.7%	67	69
神奈川県	59	2.5%	38	21	66	2.7%	34	32
三重県	44	1.8%	30	14	56	2.3%	35	21
大阪府	30	1.2%	20	10	41	1.7%	26	15
埼玉県	28	1.2%	16	12	23	1.0%	11	12
北海道	21	0.9%	16	5	23	1.0%	19	4
福岡県	21	0.9%	15	6	21	0.9%	12	9
海外	160	6.6%	81	79	166	6.9%	85	81

※転入者数の多い都道府県から順に掲載（海外を除く）

## 転入転出アンケート

調査対象：市民課窓口にて転入または転出の申請をした方（任意）

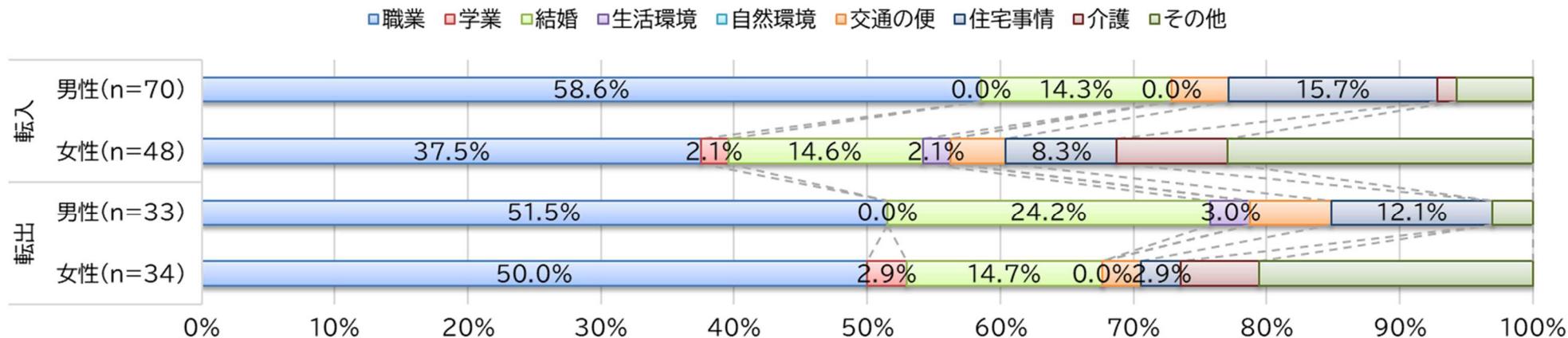
集計期間：令和3年4月1日～令和4年3月31日分

回答総数：185件

### 1 異動のきっかけ（男女別）

- (1) 最も多いのは「職業」で、転入・転出ともに男性は50%以上であるのに対し、転入の女性では40%以下となっている。
- (2) 次に多いのは「結婚」で、転入では男女間に差は見られないが、転出では9.5%の差があり、男性の占める割合が高い。
- (3) 次に多いのは「住宅事情」で、転入・転出ともに男性の方が女性よりも高い割合を占めている。

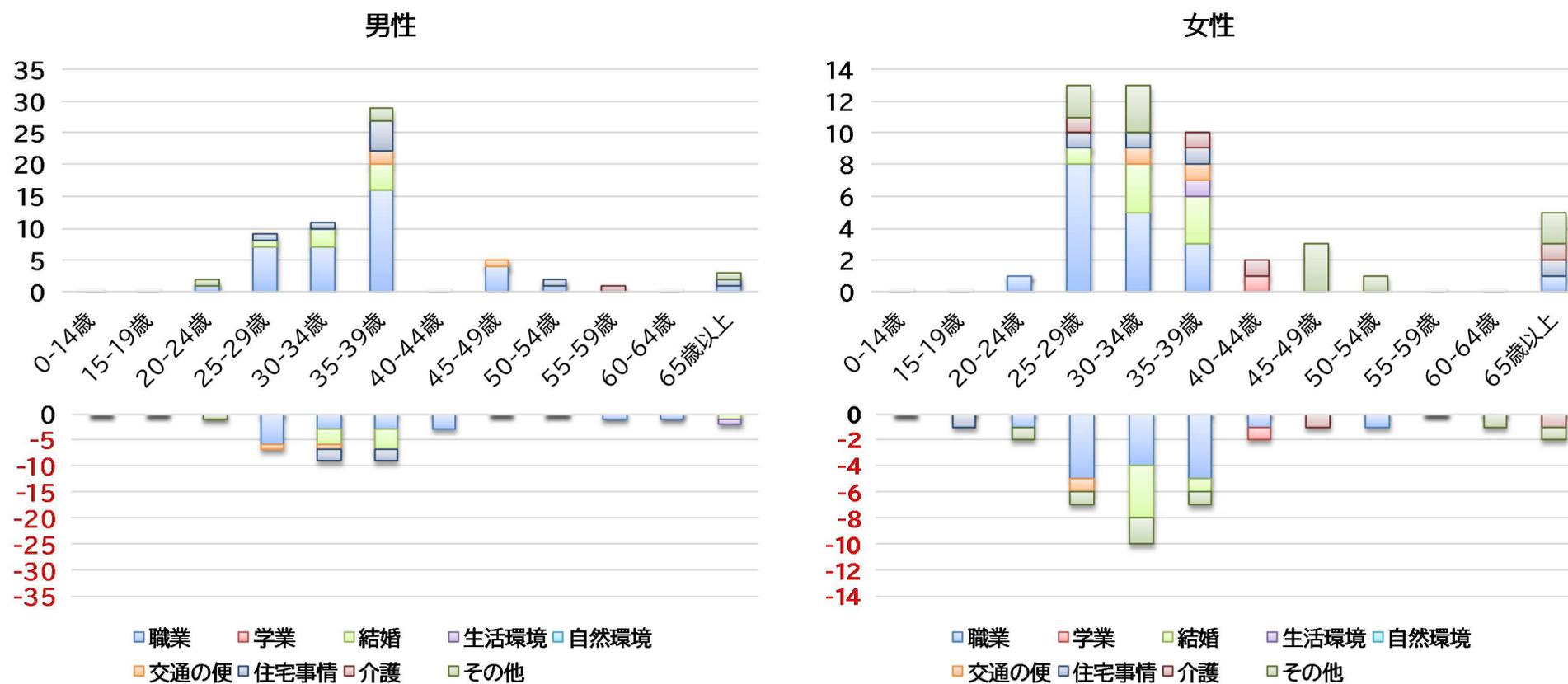
グラフ1 異動のきっかけ(男女別)



## 2 異動のきっかけ（年代別）

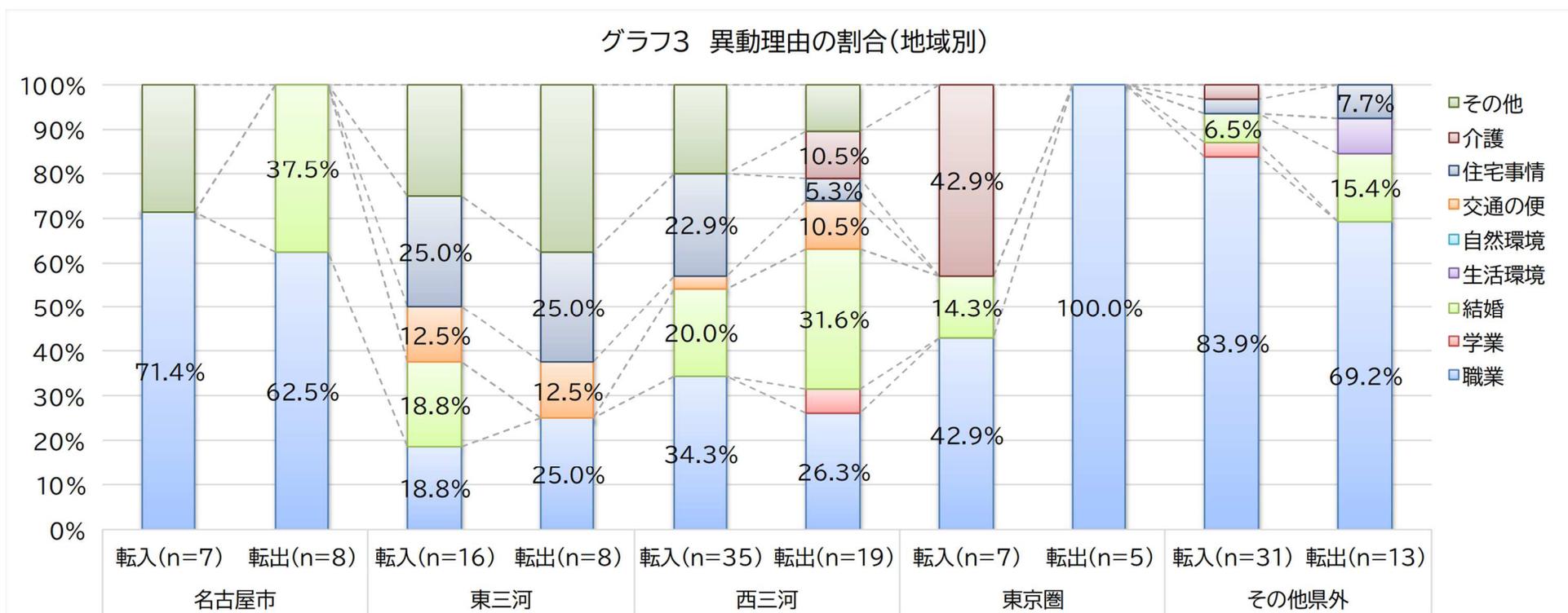
- (1) 年代によって変化はあるものの多くの年代で「職業」が最も多い。その他のきっかけとしては、「結婚」または「住宅事情」が主である。
- (2) 「結婚」は男女ともに 25歳～39歳が他の年代より多い。
- (3) 「住宅事情」は 25歳～39歳にかけて多くなっており、男女間では女性よりも男性の方が多い。

グラフ2 異動のきっかけ（年代別）



### 3 異動のきっかけ（地域別）

- (1) 「職業」は、東三河・西三河での異動においては18～35%であるのに対し、名古屋・その他県外での異動及び東京圏への転出においては60%以上となっている。
- (2) 「結婚」は、東三河・西三河からの転入においては18～20%であるのに対し、名古屋市・西三河への転出では30%以上となっている。東京圏・その他県外での異動においては6～15%ほどである。
- (3) 「住宅事情」は、東三河・西三河及びその他県外では異動において5～25%であるのに対し、他の地域ではほとんど見られない。

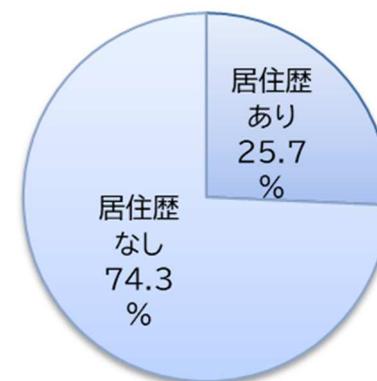


#### 4 蒲郡市への転入の理由

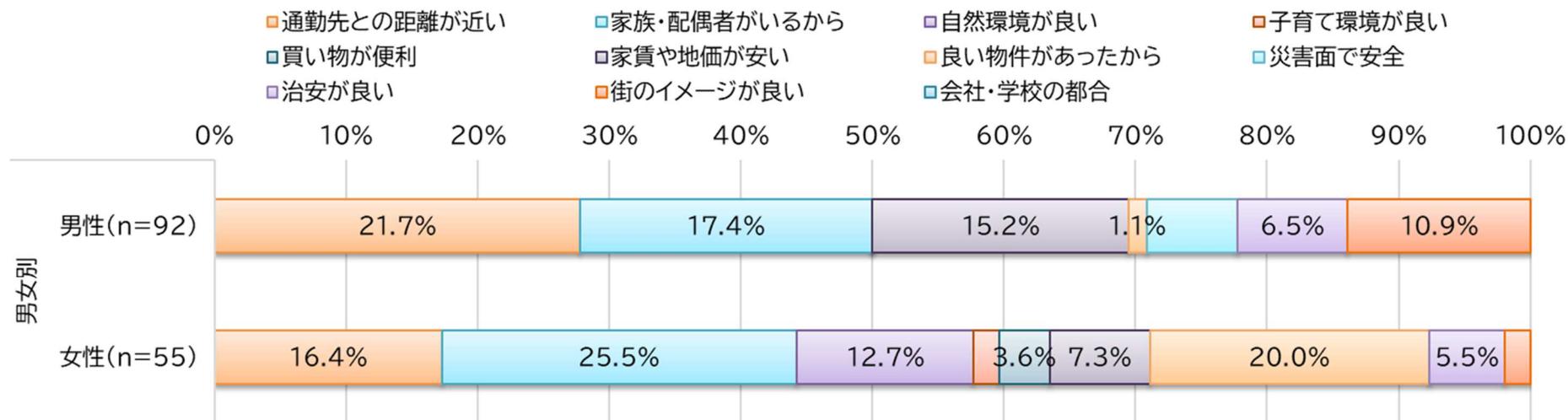
転入者に対し、過去の蒲郡市での居住歴と転入する市町村として蒲郡市を選んだ理由を聞いた。

- (1) 居住歴ありが25.7%、居住歴なしが74.3%であった。
- (2) 男性では「通勤先との距離が近い」が21.7%と最も多く、次いで「家族・配偶者が(蒲郡市に)いるから」が17.4%、「家賃や地価が安い」が15.2%、「街のイメージが良い」が10.9%となっている。
- (3) 女性では「家族・配偶者が(蒲郡市に)いるから」が25.5%と最も多く、次いで「良い物件があったから」が20.0%、「通勤先との距離が近い」が16.4%となっている。
- (4) 女性では「自然環境が良い」「子育て環境が良い」「買い物が便利」が一定数あるのに対し、男性は「災害面で安全」が挙げられている。

グラフ4 転入者の過去の蒲郡市居住歴



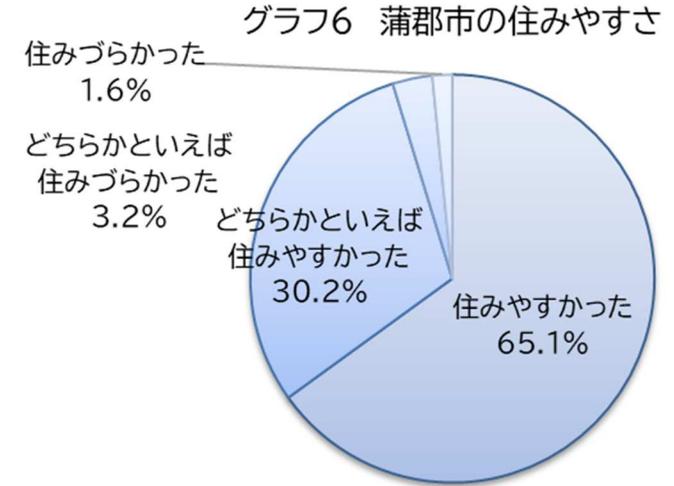
グラフ5 蒲郡市を選んだ理由(男女別)



## 5 蒲郡市からの転出の理由

転出者に対し、蒲郡市の住みやすさと転出する先の市町村を選んだ理由を聞いた。

- (1) 「住みやすかった」と「どちらかといえば住みやすかった」を合わせて95.3%が住みやすかったと回答した。
- (2) 男性では「通勤先との距離が近い」が41.9%と最も多く、次いで「家族・配偶者がいるから」が25.8%、「良い物件があったから」が12.9%となっている。
- (3) 女性では「通勤先との距離が近い」が30.0%と最も多く、次いで「家族・配偶者がいるから」が23.3%、「買い物が便利」が16.7%となっている。
- (4) 女性には「自然環境が良い」が一定数あるのに対し、男性には「家賃や地価が安い」が理由として挙げられている。



グラフ7 転出先市町村を選んだ理由

